北海道熊研究会 会報　第 130 号　　2025 年 1 月 26 日

【創刊　2013 年 1 月 25 日】
北海道熊研究会事務局　北海道野生動物研究所
代表　門崎　允昭
事務局長　Peter Nichols ピーターニコルス氏
幹事長　藤田　弘志　氏
Tel 011-892-1057
ご意見やご連絡は、次の email へお願い致します（ kadosaki@pop21.odn.ne.jp ）

- 会報の 1～129 以前の号は Website に「北海道野生動物研究所」と入力し、ご覧下さい。

「北海道熊研究会」の Facebook と Twitter の編集は横山敬子氏が当たります
Facebook： https://www.facebook.com/HokkaidoBearResearchAssociation

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的
　熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。　この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

「北海道野生動物研究所」のホームページもご覧下さい

「日本熊森協会」について

熊を保護するとの名目で、会員を募集し続けている「日本熊森協会」

は熊を保護する団体では無く、殺す事を奨励する団体に変身しました。

私(門崎)が現在全国で熊が殺されて居る現状に、それを止めさせる為の「意見広告（最後尾に掲載しています）を日本熊森協会の創設者の森山まり子さんに新聞に掲載するように要請したところ、森山まり子さんから、1月23日にMailで以下の回答がありました。

＜以下に全文を掲載します＞

内容の是非は皆さんが決めて下さい。

送られて来たmailの全文です。

門崎先生に

以下は森山まり子氏の文章です

①　一連のメールを読ませていただきました。残念ながら、先生が書かれた元文を熊森協会の名前で世に出すことはできません。

②先生のお気持ちはとてもよくわかりますし、私たちも同じ気持ちですが、あのまま出すと、一般道民に賛同を得られないばかりか、かえって反発を受ける結果が予測されます。

③一般道民に受け入れられるように書かねば意味がありません。
④森山の作った広告案に対しても、スタッフから早速猛反発が来ています。熊を殺すなどと書いたら、熊森協会は頭のおかしい人たちの集まりだと今の人たちは思ってしまうので、逆効果だという人もいます。

殺さない解決法を考えてみませんかと書いて、柵のことを紹介してはどうかという声もあります。

また、今の多くの人は鉈を知らないので、何かと思ってネットで鉈の写真を見て怖くなって引いてしまうだろう。ナイフとか、アイヌが持っていたタシロなどのような小刀などの表現に変えるべきだという声もあります。
「タシロ」はアイヌ語で、大型の鉈に似た刃物

の事（門崎注記）

どちらにしても、大変申し訳ないのですが、熊森は門崎先生の原案では新聞広告は出せません。

この話はなかったことにしてください。

森山まり子

以上の森山まり子さんの言動

皆さんはどう評価、判断、されますか

（以下は）

門崎が掲載を依頼した広告の全文です。

意見広告

日本熊森協会からのお知らせ

北海道では熊を害獣として殺しまくって

いますが、熊は北海道の先住者です。

殺しまくる事を止めて下さい。

北海道での熊問題の解決策

　北海道の熊問題は昔ら今も以下の２つです

　①　熊の生息地に人が行って熊に襲われる事故

その対策には、ホイスルと鉈を携帯し、熊より先に、

自分が熊の存在に、気づくような歩き方をする事です。

　熊は刃物で反撃され、己の身体に少しでも血が出る

様な傷を受けると、人を襲うのを止める特性がある。

但し、銃で撃ち損じた猟師には、死に至るまで顔を

攻撃する。熊は人を襲う時、抱きついて襲うので、

柄が長い刃物は不適で、銃器以外では、鉈が最適です。

　②　熊が里や市街地や放牧場、農地、果樹園、

養魚場等出没して、住民に不安や被害を与える事の対策

それには有刺鉄線柵を張り熊の生息圏と人の居住圏を

分離する事です。それ以外、有効な対策は無いのです。

有刺鉄線を、地面に１本と、地面から、40cm 間隔で、

４本、張れば良いのです。ぜひ、北海道として実施して

下さい。それで北海道の熊問題は解決されます。